

## 第9回原子力バックエンド対策専門部会の審議結果の概要

1. 日 時 平成9年4月9日(水) 9:30-11:30

2. 場 所 科学技術庁第1、2会議室

3. 出席者

(原子力委員) 藤家委員

(専門委員) 熊谷部会長、秋元委員、石樽委員、大桃委員、川人委員、  
小西委員、鈴木(篤)委員、鈴木(進)委員、須田委員、田中委員、  
徳山委員、鳥井委員、永倉委員、東委員、松浦委員、松田委員

(説明員) 宅間 原子力開発対策会議原子力環境部会副会長

増田 動力炉・核燃料開発事業団環境技術開発推進本部副本部長

(事務局) 科学技術庁

4. 議題

(1) 原子力バックエンド対策専門部会報告書案に対する意見について

(2) その他

5. 配布資料

資料(専)9-1 原子力バックエンド対策専門部会(第8回)議事要旨(案)

資料(専)9-2 高レベル放射性廃棄物処分懇談会・原子力バックエンド対策専門  
部会合同会合議事要旨(案)

資料(専)9-3 「高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発等の今後の進め方につ  
いて」の取りまとめに当たって(案)

資料(専)9-4 「高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発等の今後の進め方につ  
いて案」(平成9年4月 日、原子力委員会原子力バックエンド  
対策専門部会)

資料(専)9-5 意見の取扱いについての検討結果

参考資料

参考(専)9-1 報告書案への意見の反映について

参考(専)9-2 「高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発等の今後の進め方につ  
いて案(平成8年11月、原子力委員会原子力バックエンド対策専  
門部会)」に対する意見への回答(暫定版)

6. 傍聴者 プレス関係 3名

一 般 14名

7. 審議の概要

(1) 事務局から資料(専)9-1及び資料(専)9-2に基づき、前回議事要旨(案)及  
び合同会合の議事要旨(案)の説明があり承認された。

(2) 鈴木委員(高レベル放射性廃棄物対策分科会主査)及び事務局から、資料(専)9-3、資料(専)9-4、資料(専)9-5に基づき、分科会での検討について説明があった。

(3) 引き続き出席者から出された主な意見は以下の通り。

(報告書全体について)

- ①これまでの報告書に比べて大変分かり易いものになっている。
- ②今回は、報告書を案の段階で国民に示し意見を求めた最初の例であり、また、報告書に国民の意見を取り入れたことは大きな成果である。今後は、今回の経験を踏まえて、募集の方法等について改善していくべき。

(国民の理解について)

- ③日本では、この分野の教育が欠けており、国民に理解、納得してもらうための対応が重要。
- ④高レベル放射性廃棄物の問題について原子力委員会レベルで議論が公開されたことは大変重要。研究開発についてこれまでの成果と今後の進捗について情報を公開し交流することが重要。

(地質環境の長期安定性について)

- ⑤処分の適地は多くないとの不安を持っている人があることから、早く日本の中で適当なモデル地域を考えるべき。また、このような不安に対して、今後十分説明を行うべき。
- ⑥変動帯に位置する日本においても地層処分にとって十分に安定な地質環境が存在し得ることを第2次とりまとめの中でしっかりと取りまとめることが重要。

(中核的研究開発機関について)

- ⑦地層処分の研究開発では大きな施設や中核的推進機関が不可欠である。また、研究協力、共同研究、評価体制などをしっかり行うことが重要。

(4) 国民からの意見には検討を要するものもあるとの発言もあったが、これまでに専門部会及び分科会で審議が尽くされており、意見の取扱方針についても妥当であるとの意見で集約された。

これを受けて、熊谷部会長から、部会として意見の収束が見られたので、報告書の取りまとめについて、細かい修正など今後の扱いを部会長に一任願いたいとの提案があり了承された。

4月中旬には報告書の最終版をまとめ、原子力委員会へ報告し公表することとしたい旨発言があった。

また、個々の意見への回答については、事務局が部会での審議を踏まえて見直した後、報告書の最終版と併せて意見応募者へ送付してほしい旨提案があり了承された。

(5) 今後は、RI・研究所等廃棄物の処理処分などについて審議を進めることとし、次回は5月を目途に開催することとし、閉会した。